



安全で信頼性の高いポータブル電源を消費者へ。一般社団法人日本ポータブル電源協会が発足



長浜氏／数年前までは一部の災害対策意識の高い方、ガジェット好きな方、アウトドア好きの方などが主に購入されていたのですが、近年は災害が多く発生しており災害対策として購入される方々が急増しています。また、昨年の南海トラフ地震臨時情報の発表などを受けて広く防災意識が高まった事、行政の災害対策備品としての導入が増加していること等により急速に普及しています。

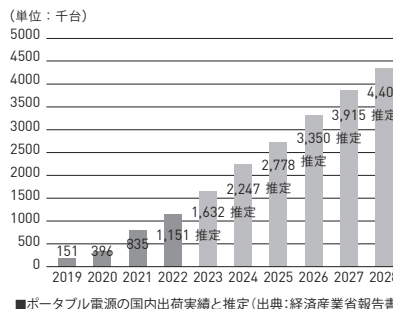
新しい製品区分のルール策定へ
まずは協会設立の経緯をお聞かせください。
井田氏／ポータブル電源は新しい区分の製品で、消費者に製品の正しい使い方や選び方が浸透していないという現実もあります。そのような状況を鑑み、安全な使用方法の啓蒙を行うと同時に危険な製品が市場に出回らないようにルール策定の必要性があることから、経済産業省の協力のもと設立することになりました。



近年増加する事故件数
ポータブル電源市場の需要はどのように推移していますか。



普及の一方で事故も増加していると聞きます。どのような要因で発生しているのでしょうか。
川村氏／水や湿気が原因の故障や誤った利用法による発火事故など様々な要因がありますが、製造販売元が国内になく故障や事故の原因を追跡できない製品が流通していることも問題になっています。消費者には国内にサービス拠点を持つ事業者の一定の安全基準を満たした製品を選んでいただくような促す必要性も感じています。



コロナ禍におけるアウトドアやリモートワーク需要に端を発し、近年は災害時の非常用電源としても需要が高まるポータブル電源。急速に普及する一方で、火災などの事故件数も増加傾向にある。この度設立された「一般社団法人日本ポータブル電源協会」の設立メンバーであり、会員7社に、現状と今後の活動について話を聞いた。

て知識を蓄えてもらえるよう働きかけていきたいと考えています。
高橋氏／ポータブル電源といえは屋外で使用するイメージもあると思いますが、お話しのとおり水に濡れると危険な製品です。すでに防水・防塵に対応した製品もあります。基本的には雨の中での使用は控える必要があるということをご理解いただく必要があります。



高い安全基準でより良い製品を

事故を防ぐためにどのような対策を講じていく予定ですか？

片貝氏／協会で安全基準の中間取りまとめを策定し、各社に準拠を働きかけています。第三者機関によるSマーク制度の安全基準としても採用されました。ポータブル電源の製造販売に携わるすべての会社がこの基準を目指すことで安全性を担保したいと考えています。電池の世界は日々進化していますので、常に新しい規格と照らし合わせて基準を更新してまいります。

正しい選び方と使い方の啓蒙
消費者への啓蒙をどのように考えていますか。

安井氏／業界内のルール策定と同時に消費者に製品理解を深めていただく活動が必要だと思っています。水に濡れると感電や爆発の危険性があることなど、メディアを通じ

インタビューにご参加いただいた協会の方々（※右上写真左から右）

EcoFlow Technology Japan株式会社 危機管理対策部部長・RV事業部部長	長浜 修 様
エレコム株式会社 商品開発部アウトドア事業課課長代理	安井 章 様
株式会社JVCケンウッド メディア事業部技術推進室シニアサポーター	片貝 易一 様
アンカー・ジャパン株式会社 執行役員 / 日本ポータブル電源協会理事長	井田 真人 様
株式会社Jackery Japan 代表取締役	高橋 勝利 様
BLUETTI JAPAN株式会社 coo	川村 卓正 様
株式会社ボスタリテイト 代表取締役社長	加藤 真平 様

